

Recherche 00035 スプラッシュタンクトップ仕様書

ニット用

パターンパーツ数 9

～付属品～

伸び止めテープもしくは接着芯(ウーリースピンテープ)

		80	90	100	110	120	130	140	150
着丈		33.5	36.5	39.5	42.5	44.5	48	51	54
バスト		23	24.5	26	28	30	32	35	38
用尺	110巾	40	45	50	50	55	55	65	85
	150巾	35	40	45	50	50	55	55	60

オリジナルパターン・仕様書の著作権・販売権は Recherche が所有しています。
いかなる理由であっても、オリジナルパターン・仕様書の無断転用・複写・流用及び転
売はご遠慮ください。

■ 用語

CF(センターフロント).....前中心

CB(センターバック).....後中心

SL(ショルダーライン).....肩線

AH(アームホール).....袖ぐり

SNP(ショルダーネックポイント).....肩線の衿側

空ロック.....布端処理等に用いる、縫い合わせをしないロック

コバステッチ.....1~2 mmの端ミシン

■ 裁断前に必ず地直しを行ってください。

■ 二本針四本糸ロックミシン使用を想定しています。それ以外の場合は着用し辛くなったり、糸切れの原因になりますのでご注意ください。

パターンには芯を貼る位置やステッチの巾等の指示が書いてありますので、本仕様書と共に確認しながら作業を進めてください。

----- 準備 -----

裁断

地の目線を確認し、生地の方角や伸びに注意しながら裁断します。

ノッチ(合印)を入れます

※ノッチとは、縫い代に 0.2~0.3 cmほどの切り込みを入れることです。

※ノッチを深く入れすぎるとほつれやすくなりますので注意します。(素材によってはチャコや切りつけをします。)

※各所縫い合わせの時はこのノッチどうしを合わせます。

伸び止めテープ(接着芯)を貼ります(※本仕様書では省略しています。)

「後身頃の SL」に伸び止めテープもしくは接着芯を貼ります。

----- 作り方 -----

パイピングテープ

生地や好みでパイピングテープを準備しておきます。

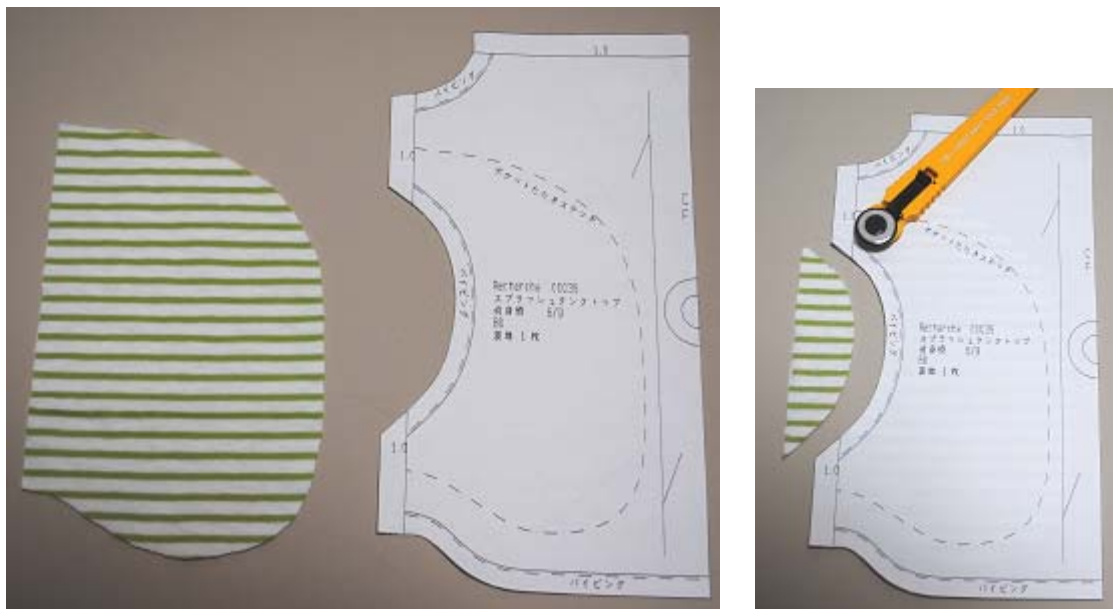
■手軽なパイピング始末■ <http://www.recherche.ne.jp/recherchetp.pdf>

ポケット

2種類の仕様がありますので、内容をご覧になりお選び下さい。

～ポケット袋布を使う場合～

前身頃パターンに「ポケット袋布」を重ね、ポケット口でカットします。



外表に重ねます。



ポケット口をパイピングで始末します。(二枚一緒に)



※裏から見たところ



中表になるよう、向布を重ねます。



「ポケット袋布」と「ポケット向布」を直線ミシンで縫い合わせ、外周にロックをかけます。





布端を切り揃え、仮留めしておきます。

～ポケット袋布を使わない場合(たたき仕様)～



「ポケット向こう布の外周」を3mm切り落としながら
5mm巾の空ロックをかけます。

「前身頃ポケット口」をパイピングで始末します。



重ねて、仮留めし、ステッチをかけます。



※手の感触でおもて面から縫い線を探るか、縫い外しが心配な場合は裏面からステッチをかけます。

切り替え

「後身頃(ノーマルもしくはフード付き)」と「後身頃裾」を中表に重ね、5 mm切り落としながら5 mm巾ロックをかけます。



同様に、「前衿ヨーク(ノーマルもしくはフード付き)」と「前身頃」を中表に重ね、5 mm切り落としながら5 mm巾ロックをかけます。



※縫い代はヨーク側に倒し、縫い代を切り揃えておきます。

SL

「前身頃の SL」と「後身頃の SL」を中表に重ね、5 mm切り落としながら5 mm巾ロックをかけます。



衿(ノーマル衿) ※フードの場合はP〜〜へ



「ノーマル衿の CB」を**中表**に重ね、出来上がり線を直線ミシンで縫い合わせます。



縫い代を割り、外表になる様、半分に折ります。

「身頃の衿ぐり」と「衿」を**中表**に重ね、5mm切り落としながら5mm巾ロックをかけます。



↑ おもてから見たところ

フード付き



「フード」を中表に重ね、5 mm切り落としながら5 mm巾ロックをかけます。

「身頃の衿ぐり」と「フード」を中表に重ねます。



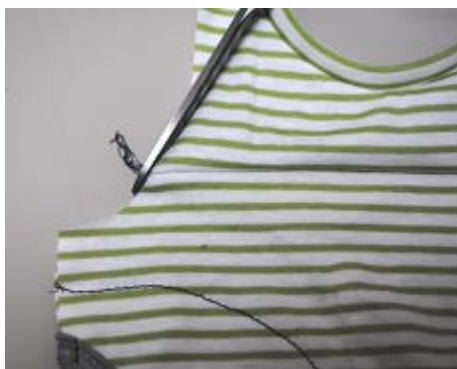
5 mm切り落としながら5 mm巾ロックをかけます。



縫い代を身頃側に倒し、「フード口」をパイピング始末します。



AH



パイピング前に縫い代を切り揃えます。



「AH」をパイピング始末します。

裾

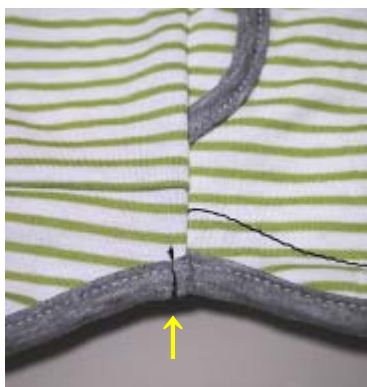


「裾」をパイピング始末します。

脇

「身頃」を中表に重ね、5 mm切り落としながら5 mm巾ロックをかけます。

※段差によって縫いずれが起きやすいので、縫い始めと縫い終わりを仮留めをしておく
と安心です。



縫い代を後身頃側に倒し、直線ミシンで縫い留めます。

-----完成-----